

## 1. コラム「論点提起」： やめる決断ができるか如何

2021年3月25日、変異株によるコロナ禍の拡大リスクが高まる中、聖火リレーが福島県の楡葉町と広野町にまたがるサッカー複合施設「Jヴィレッジ」(福島第一原発事故後、約2年間事故対策拠点として利用)からスタートした。はたして、ワクチン検査、ワクチン接種も進まない中、感染拡大の源にならず、Goal(7/23 東京・国立劇場 開会式)まで運べるか。はたまた、海外観客の受入れをしない中、リスクを犯して、海外の選手が日本に来てくれるのか。変異株による第4波が夏に到来しないことを祈るのみである。全ては、日本国内はもとより、世界のコロナ禍の状況にかかっている。

▼聖火リレーに「コロナを広げる気か！」と怒り 五輪最大スポンサーも「ナチスと同じ愚は犯すな」と鶴の一声(2) 2021年03月26日 20時15分 <https://bit.ly/3dq0OKv>

グローバル金融資本主義、新自由主義の弊害が目立ち始め、その転換が模索されているが、肥大化したスポーツビジネス/商業主義も、コロナ禍の中、その本質が問われている。立ち止まって冷静に考える必要がある。スポンサーや代理店が運営を左右する程の影響力を出しうる開催経費を要する規模の大会を開催する意義はなにか。。コロナ禍は事の本質を問うている。

そもそも、昨年の開催が1年間延期された時点でも、コロナ禍の収束には数年かかると云われていた。延期でなく中止という判断もあったのだが、日本はなかなかそうした「やめる決断」ができない。事を停止するか、進めるかの判断は感情論的には難しいが、合理的に判断すべきである。

▼「やらない選択肢ない」東京五輪関係者が明かす、組織委の旧時代な体質【匿名インタビュー】  
HuffPost Japan 2021年03月25日 <https://bit.ly/31muEtE>

「止められない公共事業」「変えられない政策・制度」がかねてより云われてきたが、コロナ禍がそうした流れに終止符を打つ機会かもしれない。人口構造の変化(超高齢化、総人口減少)、国土構造の変化(全国の森化)は歴史的な時代の流れであり、コロナ禍以前(人口増加・経済成長時代)の仕組みを変えざるを得ない。デジタル化/DX化はそれをさらに加速させるべく作用する。

日本は、計画を一度決めると、その前提条件を忘れ、遂行することが目的化する。遂行するための手段が目的化する。最近、行政までもが多用するPDCAにしても、予定調和的なPlan(計画)を是としてのサイクルであるが、これだけ状況が頻繁に、複雑に、時には激変する時(いわゆるVUCA時代)に、予定調和的なPDCAが有効なのか。状況に合わせて、計画の前に戦略が必要であるとするOODAループ(後述 6.用語解説 参照)こそが必要ではなからうか。

さらには、計画する場合に、計画決定するには判断情報が足りないこともままある。そうしたときは、その時点で全てを決めずに、機会逸失のリスクとの見合いになるが、判断できるときまで「判断保留/計画保留」とするべきである。一時期に全てを決めすぎることもやめる必要がある。

高度成長期の成功体験を引きずった従来の常識、そして埋没費用(Sunk Cost)にとらわれず、未来志向で合理的に「やめる決断」ができるか否か、日本の今後を左右すると思料されるが如何。